

広島アンケート・共産党が第2位・高まる党への期待に応じて



2月29日付の広島県党活動ニュースに、広島の市民団体がこの間3か月くらいかけて行ったシール投票「次の選挙ではどの党に入れるか」の結果が紹介されています。

それによると、1034人の投票の中、自民党の360票に続いて共産党が220票の第2党となっています。続いて民主党が140票、共産党を含む統一候補が115票、おおさか維新が66票、公明党が36票となっています。

広島県委員会は、「このシール投票以降に『5野党合意』が結ばれました。いまではもっと違う結果が出ているでしょう。世論調査でも国民の意識は変わっています。確信をつかんで打って出よう」と訴えています。（写真は、二人区広島での議席獲得に向けて全力を

挙げる高見あつみ広島選挙区予定候補）

大平議員 岩国基地・低空飛行問題で論戦

2月25日、大平喜信衆議院議員は衆院予算委員会分科会の質問に立ち、米軍岩国基地への空母艦載機移駐、F35Bステルス戦闘機配備の撤回、低空飛行訓練の中止を求めました。（写真）

大平議員は「雷鳴のようなごう音」「電話の会話がさえぎられ、テレビ音もかき消される」などの基地周辺住民の声を紹介し、滑走路移設後も耐え難い航空機騒音が続いている実態を告発。「滑走路を約1キロ沖合へ移設することで騒音問題が大きく改善されたという政府の言い分は、住民の実感とはかけ離れている」と厳しく批判しました。

さらに大平議員は、艦載機移駐後の騒音予測問題、F35Bステルス戦闘機配備問題、広島市や島根県浜田市周辺への米軍機低空飛行問題についても、現地調査などのデータを踏まえて質しました。この大平質問は、関係者に大きな反響を呼び、3月5日には、岩国市での報告集会も計画されています。



受験生にエール 岡山で党と民青が宣伝・対話



2月25日、岡山の日本共産党と民青同盟は、岡山大学の入学試験の受験生に向けて「受験ご苦労様」と声を掛けながら、赤旗号外の配布、シール投票やアンケート対話に取り組みました。（写真）

この取り組みは、中国地方の各県でも行われ、受験生からは「学費問題での不安」や「戦争法の廃止や原発ゼロ」への関心が寄せられています